

わが家では、今やすっかりテレビ・ニュースの時間をパスするようになってしまっている。関心が無い訳で無く、その逆の(多分、皆さんと一緒で)暗くて沈んだ気分になってしまっから。

ウクライナや中東の、核施設まで標的にして次の大戦を控えた戦間期を思わせる国際情勢、地球規模の温暖化と見られる異常が通常となりそうな酷い自然災害続き、国内外の民主主義から外れた政治情勢などにへきへきして、目や耳を覆いたいのだ。

今日は、ベランダでなく、室内で髭剃り中だが、つい、いつもより強めの不満を髭にぶつけた。

.....
髭を剃りながら、いつも、鏡に文句を云う。

なぜ、必要では無いところに、お願ひもしていないのに、生えるのだ? どこかの何かと同じで(??)無駄なんだ!

髭は何故、そこ?

それと、何故そこに執拗に生えるのか?場所が違っだろーもつと上の方だろ?また仮に、おつむは皆無であそこがモジャモジャでは、顔が逆転してしまっ。それはおかしいだろ?有るべきところに必要なのだ。解かって欲しい.....

そんな悩みを抱えることになろうとは夢にも思わない、まだ髭も潤沢な二十代に、何と僕は贅沢に髭を生やしていたことがある。今思うに、髭がふさふさ有るのに、どうして髭までたくわえたのだろう?ベトナム戦争が続いていた頃である。

当時の南ベトナム側のグエン・カオ・キ將軍に似ていると云われて、とまどった。格好良いとは思わない印象の將軍だった上、彼は米軍が推す越南側、反戦派の僕には嬉しい筈がない。

くどいようだが、どうして髭が必要だったのだろうか？

決して流行っていた訳でない世の中で、十分髭が有ったにも関わらず、チームの責任者として威厳のようなものが欲しかったのだろうか、ファッションとして格好良いなどと思っていたのだろうか？あるいは、髭は「男のダンディズム」なんて、気取ったことを云ったんだっけ？とにかく今は、とても解せない。

こうなったら、時空を飛んで世界ではおつむと髭をどう捉えていたのか？調べることにしたい・・・

髭と禿頭の世界の歴史

安心した訳でないが、何かと髭と禿頭的话题に事欠かない偉人が結構居られて、身近に感じて悪い気はしなかった。

先ず「髭のみ」は多勢でキリが無いゆえ、「髭且つ禿頭」様で絞ると、尊き方々が随分居らっしゃいました（ホッ！

織田信長様、豊臣秀吉様、千利休様、武田信玄様、坂本龍馬様、西郷隆盛様、シーザー様、レオナルド・ダ・ビンチ様、フランシスコ・ザビエル様、ルイ十三世様、ナポレオン・ボナパルト様、チャールズ・ダーウィン様、レーニン様・・・まだまだ居らっしゃいます。厳密には両条件具備は真偽不明のようで。

ここで、斯様な皆様御本人がどのようなお考えで無冠（？）のおつむと髭を揃えていたかは、独白も含めて推測も及ばず、一方世間に於いて髭はほぼ「威厳や時代のファッション」と捉えられていると推量。また、おつむに関しては、皆様方ご自身の詮方ない事情によると思われるが、かぶり物で隠すが如き御姿も散見され、如何なものかと僕は思っている。詳しくはいずれまた。

前半は邪魔な髭に対するうっぶん。後半は両条件具

備・真相追及のつもりが・・・半端になって（続く）